論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第１２３８号	氏　名	大 津　喜 子
論　文　審　査　担　当　者		主査教授 副査教授 副査教授	上 平　憲 中 込　治 有 吉　紅 也

論文審査の結果の要旨

1.研究目的の評価

肺炎球菌性肺炎モデルマウスを用いて、ペニシリン感受性および耐性肺炎球菌に対する新規フルオロキノロン、DQ-113、の有用性を細菌学的、薬物動態・薬力学(PK/PD)的観点から評価しようとするもので、目的は十分に妥当である。

２. 研究手法に関する評価

肺炎モデルの作製、菌の処理・培養・評価も適正に行われ、また実験の結果の評価も生存率とPK/PDのパラメターとしてのAUC/MIC比などを採用し、研究手法も妥当である。

３. 解析・考察の評価

DQ-113は、PSSPおよびPRSP肺炎マウスの生存を有意に延長させ、ED_{50}もGFLXの6.8倍、CPLXの21.3倍と優れ、またAUC/MIC比も肺組織にて82倍（対GFLX）、254倍（対CPLX）と高値を示し、その有用性が証明され、将来、肺炎球菌を含む市中呼吸器感染症の第一選択薬になる可能性を明らかにし、今後の発展が大いに期待される。

以上のように、本論文は細菌感染症を中心とする臨床医学に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。